

結果概要

第1回野洲川 MIZBE ステーションかわまちづくり検討部会 結果概要

開催日時 令和7年3月18日(火)
午後6時00分～午後8時20分
場所 総合防災センター2階 研修室
出席者 委員12名中12名
オブザーバー4名中3名
関係行政機関9名

1. はじめに

野洲市都市建設部長 挨拶

2. メンバー紹介

資料1 自己紹介

3. 野洲川 MIZBE ステーションかわまちづくり検討部会について

資料2 検討部会の位置づけ、役割

資料3 検討部会スケジュール

主な意見

意見 検討部会は協議会で決められたことを具体化する組織なのか。そうであれば協議会で決まったことが共有されなければならないのではないかと。

事務局 検討部会では、社会実験イベント等を通じて実際の施設の運用を見据えた利活用方法を検討いただき、協議会に提案をいただきたい。協議会で同意いただいた施設整備のコンセプトは後程説明するが、そのコンセプトに沿ったものであればどのようなものでも提案いただいて構わない。

4. 野洲川 MIZBE ステーションの機能・役割について

資料4 今年度の意見聴取結果まとめ

資料5 野洲川 MIZBE ステーションの目指すところ

資料6 野洲川 MIZBE ステーションレイアウト案

主な意見

意見 将来的に近江富士大橋から出入りと書いてあるが、こちらも車両の出入り口として整備するイメージで良いか。

事務局 将来的に整備したいとは思っているが、まだそこまで話は進んでいない。

5. 話題提供と意見交換

話題提供 MiiMo の取り組み紹介

意見交換 野洲川 MIZBE ステーションで大切にしたいこと・期待すること

主な意見

意見 子どもたちが自然を楽しむ場所が少なくなっている中、この場所は自然と触れ合い、たくさんのことが学べる場所である。この MIZBE ステーションの目指すところについては、「②自然」を大切にしていきたいと思っている。

意見聴取結果の中では遊具の設置という意見もあるが、個人的には遊具は無くても良いと思っている。子どもが考えて遊ぶことができる場所であってほしい。遊具というよりも里山の風景を残していただけたらと思う。

意見 野洲市は季節の移ろいをよく表現してくれる綺麗な町だと思っている。ただ、例えば桜であれば、季節は春だけであり、市内に桜のスポットもある。

そのため、季節の移り変わりや地域のバランスについては考慮しなければならない。

東京も居心地良いが、やはり野洲に帰ってくるとホッとする。野洲はちょうどいい。この施設が、野洲に住みたいと思ってもらえるひとつのツールになれば良いかと思う。

意見 持続可能なものにしていくことをイメージしながら考えていきたいと思っている。キーワードとしては、防災が非常に大事だと思っているので、力を入れていきたい。

また、野洲市のイベント等の情報が全てこの場所で見ることができるようにしたい。

意見 イベントスペースが野洲には少ないので、集まれる場所がほしい。

また、この辺りにはない新しさがほしい。せっかく高専が隣にあるので、最新テクノロジーや VR、ロボットや AI 関係を体験できる場所があればいいなと思う。

意見

MIZBE ステーションの目指すところに「①出会い」とあるが、単に市民が集まる出会いというのは良くないと思っている。例えば、地域活動団体の事務所を一括で仕切りなしで設けて、そこに出会いができることで、結果的に市民に出会いが生まれるというほうが良い。

また、災害時にこの場所に逃げ込むとなった際に、出入口はこの2か所で良いのか疑問に感じた。駅前の道からまっすぐ行けたほうが逃げやすいのかなと思う。

昨年の夏にイベントをしたときに思ったのは、屋根付きスペースの必要性を感じた。是非、実現に向けて検討してもらいたい。

また、レイアウト案に記載されている施設が本当に必要なものなのかどうかについても検討してもらいたい。

最後になるが、この4回の会議でまとまるのか、また社会実験を並行してすることができるのか疑問である。

意見

この場所は河川防災ステーション（MIZBE ステーション）ということであるが、市民がどの災害に向けて一番不安に思っているかのアンケートが見当たらない。河川の氾濫に加え、大きな地震があったときにどこまでこの施設が役立つのか疑問に思っている。

また、マルシェや物産販売の際に大変なのが集客である。人が集まる場所でなければ、地元の物を置いたところで売れない。人が集まるから売れるのである。そこを真剣に考えてほしい。レイアウト案を拝見したところ、野洲市内に類似施設はたくさんある。野洲に既にあるものを作るのではなく、ここにしかないものを作ってほしい。

温浴施設であれば、河川や夕焼けを見ながらお風呂に入れる。災害時に一番困るのはお風呂だと聞いたこともあるので提案させていただく。

本当にここでしかできないこと、斬新なもの新しいものを作らなければ集客は大変厳しいと思う。

意見

野洲川での思い出としては、泳いだり魚つかみをしたり、河川敷で野球をしたことである。また、昔は虫捕りをして遊んでいたが、今はそのような場所が少なくなっている。そういう意味では、この場所は自然と触れ合うだけで良いのかもしれない。

私の住む地域の中には散歩でこの場所まで歩いておられる方もいるが、歩いていくには少し遠い。この場所で何か催しをしても私の地域から行く人は少ないのではないかなと思う。

また、高水敷のせせらぎ水路も検討されているとのことだが、利用者の立場に立って考えてもらえればと思う。利用されてこそ、この場所が生きてくと思うので。

- 意見 この施設は何年後にできる予定なのか。
- 事務局 令和 10 年の春を目指している。施設が完成してから活用するのは難しいので、今回の社会実験等のイベントを実施することでネットワークを作り、施設オープンを迎えたいと思っている。
- 意見 水防の施設としては、野洲川の歴史を学ぶことができるなど、学習の場を提供していただけるとありがたい。
- また、子どもたちにとって安心安全の場所となってほしい。夏場はすごく暑いので、何か対策を検討していただけるとありがたい。
- 意見 野洲川という資源があるので、子どもたちが絶対に体験できる場所を作ることが良いと思っている。例えば、私どもで考えているのは、中学生は必ず 1 回は琵琶湖に入ろうという取り組みである。
- 意見 MIZBE ステーションの目指すところの「②自然」が大きなキーワードになると思うが、子どもの遊び場に遊具は必要ないのではないかと思う。自然の中でとことん楽しむということがひとつの売りになるのではないかと思う。
- なぜなら、遊具はどこの公園に行ってもあるので、あえてこの場所に持ってくるなくてもよいからである。ここにしかない体験で楽しんでもらうことで集客に繋げる方向性が良いかと思う。
- 自然で安全に遊ぶならこの MIZBE ステーションしかないと思われるような施設にしてほしい。
- 意見 子どもたちの活躍する場がコロナ禍で全くなかったため、何か子どもたちが今しかできないことを精一杯できる場所を作りたいという思いでこの団体を立ち上げた。
- 子どもたちが活躍できる場所ということを一番に考えていきたいと思う。
- 意見 アンケートが 263 件の回答しかなく、市民の MIZBE ステーションへの関心を高める必要がある。
- 実験イベントの内容を検討することも大事だが、その前に市民の関心を引く仕組みを考える必要がある。
- 意見 災害に対するコンセプトは非常に大事である。教育の場で災害に対する知識を学ぶことはできるが、実践できる場所がない。この場所ではぜひ実際に体験できるようにしてほしい。

ただ、この場所が災害のための施設なのか、それとも人を集めるものなのか。先ほどお風呂という話もあったが、どこに狙いを定めているものなのかが見えてこない部分がある。

次に、この場所を中学校等の学校施設で利用する場合であるが、まず気になるのがトイレの数である。100人以上で利用することもあると思うので。

そして、動線をどうしていくのかということである。公園という観点で考えるなら自転車は通さないといけないと思う。

あとは、屋根があるかどうかである。屋根がなければそこに行くのをやめようという話にもなるので。

展示スペースができるのであれば、例えば野洲川の上流・中流・下流でどのように河川環境が変わっていくのかを学ぶことができるかと思う。

意見

子どもの時期に自然を体験してほしい。自然というのは単に木があるだけでなく、昆虫やトンボ、蝶々やタヌキなどに出会えるような森である。そんな森を次世代に残していきたい。

これまでは高専のエリアも含めて広い緑があったので野鳥も結構来ていたが、現在、残っている森林エリアは少ない。水辺広場や駐車場のエリアにも可能な限り高木を植えることで、野鳥がその木を利用したり、夏場は木陰としても利用できるのも、ぜひ検討してほしい。

レイアウト案を見ていると野洲川へのアクセスとして階段や緩傾斜があるが、これだけでは子どもたちは水の中に入っていかず、魚つかみは不可能ではないかと思う。子どもが入っても危なくない多自然型の魚道を整備してはどうか。そうすることで実際に子どもたちが川の中に入り、昔、我々がやっていたような川遊びができるような環境ができれば良いと思っている。

意見

MIZBE ステーションは公園のように開かれた施設になるため、防犯面を考慮していただきたい。

また、他の施設と融合的に活用するとより良いかと思う。例えば、野洲川河川公園から少し下ると MIZBE ステーションがあり、少し整備するだけで新たな動線が生まれる。

運動や健康という面でいうと、元気な高齢者を作るために、高齢者が安心して歩ける場所も必要かと思う。

また、スポーツというコンテンツには人が集まる。野洲川河川公園でも多くのスポーツ大会が開かれているため、そこで商売や告知をすることができる。

最後に、高齢者や障がい者は災害が起こった時の避難という面では置いて行かれがちになっているため、そのような視点も含めて議論していければと思う。

意見 現在、子どものスポーツの環境が大きく変化しており、部活動の地域移行・地域連携も進んでいる。

 これまで学校施設で完結していたものが、子どもたちのスポーツする環境が広域になってきており、小学校の低学年から他市に保護者が送り迎えをしてスポーツをするような状況が発生している。やはり活動できる施設に子どもが集まっていくので、ある程度拠点化しなければ活動することが難しくなっている。

 そのようなことから、MIZBE ステーションが子どもたちのスポーツの活動をしていく拠点になっていくことを期待している。

 例えばサッカーは土のグラウンドは求められておらず、人工芝や天然芝が求められている。

 今回、人工芝が難しいのであれば、天然芝のグラウンドを作って素晴らしい環境を売りにしていく方法もある。

 また、高専生との連携という部分では、地元としては一緒にスポーツをして交流を深めていければ良いかと思っている。

6. 野洲川 MIZBE ステーションの実現に向けた実験イベントについて

資料 7 社会実験イベントの方向性（案）

実施イベントアンケート

主な意見

事務局 部会では主に運営方針の検討を行い、社会実験イベントについてはアンケートを作成しているので4月4日までに回答いただきたい。野洲川 MIZBE ステーションの目指すところの①～③の学びに繋がるようなものにしていく方が良いと考えて方向性（案）を作成している。いただいた意見・内容を取りまとめて、次回の部会で企画案をお示ししたい。

7. その他

 次回以降の日程調整

 あいさつ

主な意見

事務局 時間が押しているため、次回以降の日程調整はメールでさせていただく。

以上